



イスノキ（柞） 別名ヒョンノキ<マンサク科 イスノキ属>

常緑高木。長さ5~9 ㇁幅1.5~3 ㇁の長楕円形で革質、全縁。東海~沖縄の暖温帯に自生する。花は4~5月。花弁はなく葯が紅色に色づく。実は秋。1 ㇁ほどの先端の尖ったタマゴ型で褐色の毛が密生する。葉や枝には多数のアブラムシが寄生し、さまざまな虫こぶ(虫癭)ができる。虫が飛び出して空になった虫こぶは木化して、吹くとヒョウと音がするのでヒョンノキとも呼ばれる。虫こぶにはタンニンが含まれ染料に。また材は非常に重く堅く緻密なので建築材や楽器材に。和名の由来は、木材の質が硬く、櫛などに加工されるので、「くしのき」が変化したなど諸説ある。・・・▼観察会で出会ったイスノキ。葉だけでは特徴に乏しく名前を知るには難易度が高い。が、ヒョンノキの名が親しみを増す。▼三寒四温の季節に入った。芽吹きみなぎの予感を感じさせるかのように、裸木の枝先は薄っすら赤みを帯びみなぎ生気が漲る。今、地球上の各地が瀕する。暖かな春よ 早く巡って来い！

~佐伯区倉重 2023・2~